



校長室だより

No.1

つなぐ

平成30年  
4月13日

求める児童像

- 進んで学ぶ子
- 思いやりのある子
- がんばりぬく子

## 平成30年度のキーワード「つなぐ」そして「本気」

例年になく厳しかった冬を乗り越え、ようやく温かい春がやってきました。

今年の桜は3月に咲き、可憐な花に代わって今や緑の若葉が鮮やかに顔を出しています。自然の営みの不思議さと秘めた力を実感する4月。津留小学校も、いよいよ本格的にスタートしました。お子さんの、新入学・進級おめでとうございます。

4月12日に83名の新入生を迎え、本校は455名で平成30年度のスタートを切りました。津留小学校の教職員一同、精一杯子どもたちに寄り添い、一人ひとりの良さや可能性を最大限引き出せるよう指導していきます。



私の本年度の学校経営方針のキーワードは「つなぐ」そして「本気」です。

本校教職員は、目指す子ども像の実現に向かい、

- ・子どもどうしをつなぎます
- ・子どもと教職員がつながりあいます
- ・教職員相互につながりあいます
- ・保護者や地域の方々とながった教育活動を展開していきます。

また、子どもに

- ・本気で学習に取り組ませます
- ・本気で学校行事に取り組ませます
- ・本気で友だちとかかわり合わせます。

江戸時代後期の儒者佐藤一斎は「言志四録」の中で、

「<sup>いっとう</sup>一燈を<sup>き</sup>提げて暗夜を行く。暗夜を<sup>なか</sup>憂うること<sup>ただ</sup>勿れ。只一燈を頼め」

課題が見えている今の状況を、ただ嘆き悲しむだけでは何にもならない。

未来に向けて自分が頼りにする「灯火」に向かって邁進することが大切である。

という名言を著しています。

教育という営みは、時間がかかるものです。一言子どもに指示をすれば、全てが理解され、知識や技能、社会生活におけるルールやマナー、人とかかわり方等が身につくといった、生易しいものではありません。

「どうしてわからないの?」「どうしてできないの?」という問いかけは、あまり効果がありません。その答えは、「分からないからわからない」「できないからできない」が正解なので、その問いかけに正直に応えたら、叱られることはわかっているのですから。

しかし、学校の役割は保護者の協力を得る中、子どもを本気にさせること。分からないことを分かるようにすること、できないことをできるようにすることです。決して諦めず、何度も何度も繰り返し指導することです。

私たち津留小学校の教職員は、児童の明るい未来、夢や希望の実現のために、保護者の皆さんからの信頼を得て子どもにとっての「灯火」としての役割が果たせるよう、今後とも日々全力を注いでまいります。

そのために、教職員は **本気で子どもに向かい合います。**

本年度も、本校の教育活動へのご協力、よろしく願いいたします。